

## 平成 30 年 4 月 27 日 市長定例記者会見 会見録

### 【市長】

ゴールデンウィークを間近にして、皆さん何か予定はありますか。

今日も春の行楽シーズン真っ盛りにふさわしい話題が二件ありますが、その前に 5 市 2 町の GOTO(ゴートゥー)のプレスリリースについては、本当に皆さんに関心をもっていただけて大きく報道していただいたこと、厚く御礼を申し上げたいと思います。

7 人の首長で、共同で発表できたということに、とても意味があるのだらうと思います。

連携中枢都市圏の第 1 弾の共通政策ですのでね。交流人口の相互乗り入れによる活性化ということに、まあ皆さん報道して下さったおかげでね、随分これから効果が出てくるじゃないかな。

昨日 35 万部、それぞれの新聞の折り込みで入れさせていただきましたし、また、問合せも多いんですよ、市民の皆さんから。

どこへ行ったら手に入るのかとか、うちの新聞には入ってなかったとかね。

あるいは、焼津の大崩の先に松風閣というホテルありますよね。

アンビア松風閣からは、うちも欲しいから 200 部くらい送ってくれとかね、こんな風に本当に大きな反響がありましたのは、皆さんの報道のお陰だと感謝を申し上げたいと思います。

そんなつもりで、今日は「まちは劇場プロジェクト春フェス開催、今年の 5 月も静岡市がおもしろい」というタイトルで発表いたしますので、よろしくお願ひします。

これ(団扇)、所管課が作りました。

暑くなりそうなゴールデンウィークですよ。

団扇がわりにも使えるという宣伝の「まちは劇場」、静岡のまちは劇場になるという、ここの部分、3 次総の 5 大構想のひとつでもあるのでね、まだまだ認知度が低いので、こういう機会を通じて PR をしたいということで、この団扇を作ったんですが、みそは、QR コードが真ん中に入っていて、まちは劇場ってどんな雰囲気なのってことを動画でわかるようにしたところですのでね、記者の皆さんには、この QR コード、当ててみるとどんな映像が出るのか、1 分弱の短い動画なんですけど、お見せをしたいなと思いますので少しオンエアをお願いします。

(動画)

はい、どうもありがとう。

統一ロゴ、この唇の笑っている図案の統一ロゴ、これもどんどん前へ出して行きたいなと思います。

このまちは劇場というものは、もちろん、文化振興という文化政策という面はあるんですが、もっと大事なものは、経済政策につながるということです。

この文化力というものを経済力に変えていくということです。地域経済の活性化に繋げていくという

ことが、一番の本質的なポイントであります。

観光行政に今、力を入れているわけですが、その有力な要素としても、まち全体が、ホールのみならず戸外も劇場のようなわくわくドキドキの仕掛けをしてみる。静岡市に集まっていたきたい。そして、この人が移動して、その後、ショッピングに寄る、食事に行くということでお金が使われる、そういう仕組みができるということが地域経済の活性化に繋がる。それを5市2町にも展開していこうというのが、この前のGOTOになる訳ですね。ここの私たち域内人口115万人が持っているポテンシャルを大いに使っていこうということでもあります。

さて、その中で、本市を進める「まちは劇場」の推進は、年がら年中365日ワクワクドキドキの静岡、いつでもどこかで何かが起こっているということが、目指すまちの姿であります。その中でこのゴールデンウィーク中心の春フェス、文化の日中心の秋フェス、ここは、いわば強化月間といひますか、強化週間といひか、強化期間とし設定をしていきます。

このまちは劇場、市民の要望でね、例えば、大道芸ワールドカップの11月の数日間はずごく活性化で、まちは華やいでいるけれども、あの期間だけで終わらせるのはもったいないから、点を線にしてほしいよ、面にしてほしいよ。年がら年中、大道芸ワールドカップのような面白い仕掛けのあるような街にしてほしいよ。だったらもっと静岡に行くのに、というような要望が多かったですね。

こういう風に、それを年中化していこうと、スルーイヤーでやっていこうということです。

でも、いきなりそこへはいかない。

まず、単発のイベントがある中で、春フェス、秋フェスという帯を、まず重視して強化月間としてやっていこうということで、5月はまさに、春の行楽シーズンそういうことでもあります。

皆さんの手元に、春フェスの資料を配って詳細については、是非ご覧いただきたいと思ひます

これは、県と連携でやりたいと思ひます。

県がSPAC中心に、これも資料を配付しておりますけれども、「ふじのくにせかい演劇祭」、英語名は「ワールドシアターフェスティバル静岡2018」というものを展開するわけですね。

ホールの中でやるのは、非常に高尚な芸術性の高い演劇作品が多いですね。

マハーバーラタは、駿府城公園の中で講演して、これも世界的に非常に評価の高い演劇なんですね。どちらかというと、市がプロデュースする部分は、富士山でいうと、県がプロデュースするSPAC中心でやるのは頂の部分、芸術性が高い、文化性が高い、そういう出し物がインドアで芸術劇場等々でやると。

裾野の部分で、大道芸とか、単純でくだらないかもしれないけど、面白いねという庶民的な、そういうストリートパフォーマンス。それは、市がプロデュースしようとして、例えば、このパンフレットでいうと、9番の「ストレンジシード 奇妙な種」、これ3年目になりますけども、これを市の方が所管をしてやると。こんな県市連携で全体として交流人口を活性化させていこうというような取り組みであります。この春フェスの中にカンヌウィークも三週間に渡って、姉妹都市であるカンヌでカンヌ映画祭が開

かれるのと同じ期間、週末ごとに第1週目が駿河区の登呂遺跡の田園のマルシェ、第2週目の週末が葵区七間町の石畳のちょっとヨーロッパ的な雰囲気を持っている映画館街の街角のマルシェ、そして、最終週の三週目の週末は、コートダジュールのような雰囲気を持っている清水港の清水マリパークで海辺のマルシェを。田園のマルシェ、街角のマルシェ、そして、海辺のマルシェと週末ごとに楽しんでもらう。

すごく出店審査をチェックしています。女性にとっても喜ばれる。

女性がヨーロッパを好きなんです。雰囲気がね。女性に喜ばれるような雰囲気を、テーマ性を持たせているんです。カンヌウィークですから、ヨーロッパの。

だから、どんなに旨くて行列ができて、富士宮焼きそばはないんです。浜松餃子はないんです。クロワッサンとワインの世界なんです。

そういう風にイメージ作りにも実行委員会が配慮をしながら、カンヌウィークを今年もやっていきますので、今年もよろしくお願いたします。一つ目は以上です。

二つ目。

世界水準の自転車都市しずおかの実現に向けて。

自転車をこぐのに本当にふさわしい季節であります。

昨年5月に、国において自転車活用法推進法が制定されたことはご存じだと思います。

追い風として、全国レベルでその法律によって、あの5月というのを日本は、自転車月間と定めることにしたんですね。

このサイクリングにも最高の季節の5月、静岡もこの取り組みを強めていこうということでもあります。

国交省が中心にやっている道の駅、とてもこの頃、脚光を浴びて、色々な独自の道の駅を通じた地域の活性化をしていますけれども。

サイクリストから、あるいは自転車愛好のサイクリングを楽しむ方々にとって、道の駅ってたまにしかないよね、もっと頻りに短い距離で、道の駅みたいな大袈裟なものでなくてもいいから、ちょっと休憩ができるスポットがあれば嬉しいというリクエストありました。

そこで、都市局中心に立案しまして、自転車の駅をぜひ整備をしてくれと、設置をしてくれと、民間の団体企業に呼びかけています。

それを、静岡市自転車サポート制度というふうに位置付けて、協力して下さる方にその認定書を交付するというやり方にしたいと思っています。

これもお手元の資料 A3 縦紙の資料1。早速、手を挙げてくださった、それぞれの施設が自転車の駅やってもいいよということでもあります。この赤字で書いてある17箇所ですね。ここには自転車のラックと空気入れ、そして、ここは自転車の駅ですよってことが表示できるのぼり旗。これを設置して自転車でオクシズなんかを満喫していただこうと。左上の雰囲気ですね。そんな風にしてこれからプロデュースをしていきたいというふうに思っています。

これは、水見色のきらく市の写真でありますけども、左上の写真はね。

あの自転車のラックを置かせてもらっていて、とてもサイクリストの皆さんに喜んでもらっています。これが自転車の駅です。こういう自転車の駅を設置してくれる場所であるとか、企業、団体を公認自転車サポーターとして認定していくということです。

詳しくは、これも資料の中に入っていると思いますが、A4 縦紙の青い紙、「自転車サポーター募集」、ここに詳細が書かれております。いずれにしても、街中は歩いて楽しい春フェス、そして静岡市広いのですよね。オクシズ、しずまえ、自然環境を楽しむという方は自転車を使って、春の行楽シーズンを思い思い静岡市を楽しんでいただけたらと思います。

私からは以上です。

#### 【静岡放送】

この自転車の駅は、最終的にはどのくらいの数を目指していますか。

#### 【市長】

できるだけ多くということですので、都市局の事務方から補足があれば紹介をしてください。

#### 【交通政策課】

今年度の目標としては 50 か所を予定しております。

第 3 次総合計画の期間内、平成 34 年までにおおむね 150 か所の認定を考えております。

#### 【副市長】

今の数ですけど、この自転車の駅だけではなくて、自転車を応援する企業だとか全部含めての数なので、これ、17 なので、プラスいくつか、自転車の駅はそれくらいとご理解ください。

#### 【市長】

自転車の駅で協力するよというのもサポーター、他にもソフト的な対応、マインド的な対応、こういう取り組み例は全部サポーターとして認定していくよということです。

#### 【交通政策課】

青紙(チラシ)の裏面をみていただきたいと思いますが、自転車の方で取り組みとしてハード、ソフト、マインドと各部門で取り組みを行っておりますが、それぞれの部門で自転車の駅以外にもこうした取り組みをしていただけたところを全体で 150 件と考えております。

#### 【市長】

そのうち、自転車の駅はいくつかということなんだけれども、まだ決めていないんじゃないかな。

#### 【交通政策課】

これから募集をしていく中で、箇所数の割り振りが決まってくるかなと考えておりますが、自転車の利用環境向上という意味で、自転車の駅についてもなるべく多くの方に手を挙げていただきたいというふうに考えてございます。

**【司会】**

発表案件につきましては、以上でございまして、ここからはフリーの質問ということで、ございましたらお願いします。いかがでしょう。

**【朝日新聞】**

昨日、大川小学校で学校側の責任を認める判決が出たんですけど、東日本大震災の。石巻の。静岡市の学校ではどういう実態、マニュアルとか避難の訓練とか、どういう実態になっているのでしょうか。

**【市長】**

教育委員会の方で取り組んでいると思います。

これは、非常に正確に伝えなければいけない話ですので、当然、学校の防災対策として、ひとつ教訓としてやっていかなければいけないと思いますので、また、後ほどお答えします。

**【静岡朝日テレビ】**

2点伺いたいんですけども、一つは、子ども医療費助成事業補助金について、県内全市の共同声明として県に出されました。

その中で、医療費助成は、どの市に住んでいても同じ水準であることが望ましいという文言があるんですけど、以前先月の会見で、市長は公平ということは考えられないとおっしゃいました。

今のお考えはいかがですか。

もう一つですが、セアカゴケグモが先週末、市内で見つかりました。それについて、どこで見つかったのか。うちの記者、他の記者も担当課に電話して、うかがったのですが、一斉教えてくれない。市内のどこか、要するに全市が対象になっちゃうんですね。それよりも、ここで見つかりましたと言った方が、不安はなくなるんじゃないかと思います。それについて、今後も含めてこういうことがあったら、どこまで教えていただけるのか。それについて、お聞きしたい。

**【市長】**

二つ目の質問から、答えます。

私も詳細、承知していません。なので、ここのところ確認しますけれども、安全上の問題とか、あんまり特定の場所を積極的にPRするというのがどうなのかという議論が内部的にあるだろうし、いやむしろ教えた方が、予防ができていいのではないかという意見もあるんだろうと思います。

いずれにしても、私自身もどこだということを承知していませんので、今、問題提起をいただきましたので、きちっと前向きな検討をしていきたいと思っています。

あと一つ目の質問は、理念とすると公平であるべきだという共同声明を今回発信してくれたというのは、大変ありがたいと思いますし、県の市長会は東海市長会を通じて全国でもミニマムの国の制度として、統一的に公平的に医療費の助成をするべきだというふうな提言、要望を出しています。しかし、現実はやっぱりそれぞれの自治体の財政力によって凸凹があるということが現実だということを、先日申し上げたということですので、ご理解をいただきたいと思います。

**【静岡朝日テレビ】**

求めるところは、公平ということですね。

**【市長】**

全国一律に、同じ医療費の助成水準があるというのが、あるべき姿だと思います。

**【中日新聞】**

ちびっこ相撲についてということで、静岡で開かれたちびっこ相撲、子供達が三年前までは登れたものが、今年については自粛してもらいたいということで、登れなかったというのが静岡場所でありましたけれども、子供が要は土俵に上がれないと、女兒が上がれないということを、どのようにお考えであるかというのが一つ。

それから、これについて大相撲協会がその報道が出た翌日ですか、女兒の方が、ケガが多いからというような理由で上がらないでということをするような趣旨の説明をしましたがけれども、その大相撲協会の説明について、どのように受け止めていらっしゃるか、この2点をお伺いしたいと思います。

**【市長】**

かねてから申し上げているとおり、私はやっぱり、ちびっこ相撲は女の子が一生懸命相撲に情熱をかけているのだったら、土俵に上がらせてあげるべきではないかという風に思っています。

やっぱり相撲は格闘技ですから、ケガはつきものですからね、男の子だってケガをするだろうし、それが女子を上がらせない理由にはならないと、私は個人的に思っております。

要は、相撲協会がこれからどう考えるかなんですね。本場所の女性を土俵に上げないということについても、私はこの前、(静岡)場所で申し上げましたとおり一石を投じたわけですね。それも検討すべきではないかと。ただし、相撲というものをスポーツとしてね、柔道のようにこれから国際的に発展をしていくには、ワールドスタンダードの目線で、やはりここところは時代に対応していかなければならないという問題提起をさせていただきました。そういうことであれば、それは検討せざるを得ない、一つの要素なのだろうと思っています。

しかし、一方でね、いやそうじゃないのだと。外国人力士が増えたとはいえ、これは日本の一つの

興行として、日本の秩序の中でやるのだという考え方もあろうかと思えますから、これは、これからやっぱり相撲協会が真摯に議論をして結論を出していただきたいという風に思っています。

【中日新聞】

重ねてお尋ねいたします。ケガはつきもので男の子もケガをするということで、上がらせないという理由にはならないというお話が今ありましたけれども、そういう説明をする相撲協会について、どう思われますか。要は理由にならないことを理由にして上げないということについて、どう思われますか。

【市長】

相撲協会の議論でありますので、彼らの議論の行方を見守っていきたいと思います。

【朝日新聞】

市長は、パスポートはどこに保管されているのでしょうか。

【市長】

大切にリビングルームの引き出しの中に保管をしています。

【中日新聞】

知事がパスポートをなくされたということについて、なくすってことはなかなか考えづらいと思うのですが、パスポートを紛失して、首長が行けなくなってしまったということについて、どうお考えでしょうか。

【市長】

県市を連携させていきたい。とにかく平成 30 年度、いろんな意味で県の職員と市の職員の連携という環境を私は作りたいと思っております。どうぞご理解いただきたい。

【中日新聞】

連携の話を伺っているわけではなくて、行けなくなったということについて、どう思いかということですね。同じ首長として。

【市長】

おっしゃるとおりですね。この辺でいいでしょう。